かつらぎ町史

高田の渡し（明治末期）　　中飯降　岡村宗和氏所蔵
穴伏川との合流点から船岡山（右側）、高田（左側）を望む

第三回配本

近代史料編

●発刊のお知らせ

かつらぎ町史　近代史料編

●本の体裁
A5判　上製本　貼箱入　一三三二ページ

●頒布価格
五、〇〇〇円

●郵便振替口座
00910―5―314714
（加入者名　かつらぎ町役場）

かつらぎ町史（全4巻）刊行予定

既刊　第一回配本　古代・中世史料編
頒布価格　五、〇〇〇円

既刊　第二回配本　近世史料編
頒布価格　五、〇〇〇円

続刊　第四回配本　通史編
頒布価格　未定

かつらぎ町史編集委員会

（一九九五年三月現在）

委員長	小山　靖憲	編纂	木村　博一
委員	井筒　勝蔵	〃	山本　智教
〃	岩倉　哲夫	〃	渡辺　広
〃	後藤　正人	参与	熱田　公
〃	重松　正史	〃	大谷　正
〃	下村　克彦	〃	中野　栄治
〃	高嶋　雅明	〃	日野西　真定
〃	田村　和士	〃	山中　永之佑
〃	東　毅		
〃	藤井　保夫		
〃	藤本　清二郎		
〃	前田　一郎		
〃	牧田　りゑ子		
〃	溝端　明治		
〃	山陰　加春夫		

●問い合わせ
〒649―7192
和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町二二六〇
かつらぎ町役場内（総務課）
かつらぎ町史編集委員会（役場南別館二階）
電話（0736）22―0300

かつらぎ町史

近代史料編

本書には、かつらぎ町域に関係する、近代の主要な文献史料九四一点を収めました。収録の上限は明治元年（一八六八）、下限は昭和二〇年（一九四五）です。時期を大きく四つに分けて、Ⅰ幕末・維新期、Ⅱ明治前期、Ⅲ明治後期・大正期、Ⅳ昭和戦前期とし、それぞれに行政・財政、産業・経済、社会・生活、教育・文化に関連する史料を載せました。

"近代"は、町民の皆さんにとってきわめて身近な時代ですから、ご自身の、またはお父さん・お母さんの、あるいはおじいさん・おばあさんのかかわられたことが、そのまま史料として出ています。知っている事柄や、人名・地名をあちこちで発見されることでしょう。

本書の巻末には、史料の理解を助けるため、七五ページに及ぶ"史料解説"をつけました。ご家族で本書をひもといて、歴史を振り返りつつ味読してください。

「かつらぎ町史」の史料編は、この「近代史料編」の刊行で一応完結しました。すでに「古代・中世史料編」「近世史料編」を購入されている方はもちろんのこと、まだ購入されていない方も、この機会にぜひご購入ください。既刊分もいくらか残っていますから、いまのうちなら、史料編全三冊をそろえることができます。

本書から、次のような興味深いことがわかります

＊堺県・五条県

現在のかつらぎ町域は、江戸時代、紀ノ川を境にして、紀州藩領と高野山寺領に分かれていました（ただし、島村は紀ノ川の南岸にありますが、紀州藩領でした）。高野山寺領は、明治二年（一八六九）に堺県、同三年に五条県、同四年に和歌山県になりました。町域の旧寺領が堺県や五条県であったころの史料も収めました。

＊和歌山藩の交代兵

和歌山藩では、明治六年に政府が出した徴兵令以前に、「交代兵」という四民平等の徴兵制を敷きました。明治三年（一八七〇）の藩の規則には、士・農・工・商の区別なく、二〇歳の男子を兵役に服させるとあります。江戸時代には武芸をもって戦うのは武士だけでしたが、明治時代になると、農家の息子も兵士として取られました。そのため、親が困惑しているという史料も収めました。

＊紀州藩の横暴

江戸時代、他領との境界が川である場合、一般的には川の中央が境界になっていました。しかし紀州藩は、三三家の威光をカサにきて、川をすべて藩領としました。そのため、寺領の人々が紀ノ川から取水することは至難のわざでした。明治三年四月になって、ようやくこれが解決されたという史料も収めました。

＊行政区画の変遷

市制町村制ができる明治二二年（一八八九）までは、町域の行政区画はめまぐるしく変わりました。たとえば、いま町役場のある丁ノ町（村）は、明治五年には第四大区一小区、明治一二年には丁ノ町村新田村戸長役場、明治一七年には妙寺村外六ヶ村戸長役場、明治二二年には妙寺村役場に属しました。あなたのお住まいの大字（当時の村）がどの行政区画に属したかもわかります。

＊風俗・風景の写真

明治末期から大正初期にかけて（一九一〇年前後）、各地の風俗や風景を写した、五〇〇枚にも及ぶ貴重な写真乾板が中飯降の岡村宗和さん宅で発見されました。そのなかから、町域に関係するものを選び、本書の口絵と、巻末の「史料解説」のなかに載せました。懐かしい写真の数々をお楽しみください。

＊高等家政女学校

県立笠田高等学校の前身は、笠田高等家政女学校でした。この女学校は、昭和二年（一九二七）に笠田町立として創立され、その後、昭和一五年（一九四〇）に県立となり、さらに昭和一七年に笠田高等女学校と校名を変更しました。今回、国立公文書館（東京都）で学校の変遷を物語る新史料を入手し、本書に収めました。

建築中の妙寺製糸株式会社

＊妙寺製糸株式会社

戦前、かつらぎ町域に五〇〇人もの従業員が働いていた、県下でも有数の製糸工場が二つあったことをご存じでしょうか。大字妙寺の伊都製糸（明治二六年創業）と、大字丁ノ町の妙寺製糸（大正六年創業）がそれです。この二つの妙寺製糸の岡村宗助社長でした。妙寺製糸の建物も多く写しています。写真左は、建築中の妙寺製糸で、社名を書いた煙突がまだ斜めになっています。写真上は、完成した妙寺製糸の全景で、煙突がまっすぐに立ち、社名が白く浮き出ています。本書の口絵には、もう一方の伊都製糸の写真も載せました。

妙寺製糸株式会社の工場全景（1917年創業）

発刊にあたって

かつらぎ町長

浦埜康雄

今回、かつらぎ町史第三回配本「近代史料編」が発刊の運びとなりました。

明治・大正・昭和とめまぐるしく激動した各時代、わがふるさとは、紀ノ川流域での、政治・経済・産業・文化の一拠点として発展をしつづけ、その主導的な地位を固めてまいりました。その先祖の築いた歴史を解明し、新しい夢をふくらませることが、郷土の見直しと再発見につながり、今後のかつらぎ町のまちづくりの指針になるものと確信します。

本書が町民の座右の書として広く愛読され、末永く活用されることを願います。